

編集後記

本号は、中世文学、近世文学、近代文学、国語教育、翻刻など多彩な内容となった。この中には、卒業生である、神明氏、篠原氏、加藤氏らの論考も含まれており、在学生にとどまらず学会員が旺盛な教育・研究活動を展開していることを喜ぶたい。これら若手の方のみならず、ベテランの研究者あるいは教育者まで多くを抱える本学会であるから、今後も多方面から投稿していただけるようお願いしたい。

投稿規定

国文学会機関誌『同志社国文学』は、会員諸氏の研究発表の場でありますから、進んでご投稿ください。枚数は四百字詰三十枚以内。投稿時には、論文二部（一部コピー可）とともに、可能な方は電子媒体を添付して提出してください（提出されたものは返還しません）。第六十九号の締切は二〇〇八年九月末日、第七十号の締切は十二月十日厳守。ただし、掲載論文には限度がありますので、論文の採択は編集委員に一任してください。採否の問合わせには応じられません。

なお、本誌に掲載された論文の複製権、公衆送信権は同志社大学国文学会の許諾に委ねるものとし、同志社大学内の他の媒体において公開される場合があることをご了承ください。

執筆者紹介（掲載順）

植木朝子（本学教授）

加美甲多（本学大学院博士課程後期課程在学生）

神明あさ子（追手門学院大手前中学校・高等学校非常勤講師）

三宅宏幸（本学大学院博士課程前期課程在学生）

山田哲久（本学大学院博士課程後期課程在学生）

篠原武志（洛星中学・高等学校教諭）

加藤直志（名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校教諭）

岩坪健（本学教授）